



“木を植えて 育てて活かす 緑の力” をあなたの手で!!

## 謹 賀 新 年



■表紙写真 題名:松並木 撮影場所:静岡市 撮影者:小柳津 友次氏(静岡市)

## INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL : <http://www.moritohto.jp>

- 2 謹賀新年  
公益社団法人 静岡県山林協会 会長 鈴木 康友  
静岡県知事 川勝 平太
- 3 支部だより①  
三島市の森づくり団体の活動について
- 4 支部だより②  
人を育てて道がつながる、未来につなげる
- 5 支部だより③  
林道整備と林業振興

- 6 県庁だより①  
伊豆しいたけの再興に向けて
- 7 県庁だより②  
第36回全国育樹祭 盛会のうちに終了!
- 8 本部情報  
静岡県森林土木技術研究会との協働による人材育成
- 8 事務局だより





公益社団法人 静岡県山林協会  
会長 鈴木 康友

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員をはじめ関係者の皆さまには、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日ごろから、当協会における各種事業の推進並びに運営につきまして、ご協力とご支援をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年は、本県において初めての全国育樹祭が開催されました。当日は、皇太子殿下を始め、全国の森林林業関係者をお迎えして盛大に開催することができました。ご承知のとおり、本県の森林率は64%であり、豊かな森林を背景に伝統的に林業の盛んな地域でございます。開催テーマである「木を植えて、育てて活かす、緑の力」のもと、本県の関係者が一致団結して、「森林資源の活用」を掲げる静岡の取り組みを全国に向けて発信する機会となりました。

林業の低迷が長らく続く状況ではありますが、木材は、資源の乏しい我が国の中で唯一再生可能な資源です。住宅を始めとして様々な場面で木材を積極的に使うことが、森林を活かす取り組みにつながります。公共施設物の木造化の推進や、再生可能エネルギー固定買取制度を活用した木質バイオマス発電所の建設が各地で計画されるなど、木材を活用する機運が高まっています。今後も木材需要を喚起し、林業、木材産業を発展させることで、地域経済の活性化に努めてまいりたいと思います。

当協会は、平成23年7月の公益社団法人への移行を機に、「不特定かつ多数の県民の利益の増進に寄与する」ことに配慮した、「森林の保全」、「山村及び林業の振興」、「森林整備の担い手の育成」に関する事業の充実に取り組んでおります。本年も会員皆様方の変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びにあたり、会員の皆さまの益々のご健勝とご活躍を祈願いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成25年 元旦



静岡県知事  
川勝 平太

## 森林資源を活かす“ふじのくに”づくり

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年11月の「第36回全国育樹祭」では、貴協会を始めとした関係の皆様に御協力いただき盛大に開催できましたことを、厚くお礼申し上げます。

全国育樹祭では、御臨席を仰いだ皇太子殿下から「森林を守り育て、活かす活動の輪が全国に広がるように」とのお言葉を賜りました。本県では、質・量ともに成熟した森林資源の活用を通じて、森林・林業を再生し、森林の持つ多面的な機能を持続的に発揮させ、雇用創出等により地域の活性化を図る取組を進めています。皇太子殿下のお言葉を賜ったことにより、こうした本県の取組を更に推進していかなければならないとの決意を新たにいたしました。

本年は、県総合計画に掲げた「県産材生産量45万立方メートル」達成の目標年です。現在、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」として、森林施業の集約化や路網の整備などを着実に進め、山側の安定供給体制の整備を推進するとともに、効率的な丸太の流通システムの構築や加工体制の整備、住宅や公共建築物における県産材の利用促進などに取り組んでいます。目標達成に向け、これらの取組を一層加速させてまいります。

全国育樹祭をきっかけに森林資源の活用の機運が高まったこの機を逃さず、日本の中心である、ここ“ふじのくに”静岡県で、森林・林業に携わる皆様と一丸となって、県産材の需要と供給を一体的に創造する取組を強力に推し進め、森林・林業の再生を実現してまいります。今後とも、御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、今年1年の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈りいたしまして、新年の御挨拶といたします。

平成25年 元旦



# 支部だより①

## 三島市の森づくり団体の活動について

三島市 農政課



三島市農政課からは「フォレストインストラクター養成講座」の修了生によって結成された「NPO法人 三島フォレストクラブ」と「箱根西麓百年の森づくり講座」について紹介していただきました。

三島市の面積は6,213haで、森林面積は2,378haと約38%を占め、その約7割の1,645haが人工林で、大半が箱根西麓に位置しており、この箱根西麓の森林では、木材価格の低下や不明確な土地境界等の理由により、間伐など森林整備が進まない状況であり、その対応に苦慮しております。

このような中、市民の皆さんにもっと森の大切さを知っていただき、自らの手で健康な森を育てていただこうと「フォレストインストラクター養成講座」を開催したところ、その修了生の皆さんによって、森林ボランティア団体「三島フォレストクラブ」が結成され、平成22年度には「特定非営利活動法人」を取得し、「NPO法人三島フォレストクラブ」として、将来を見据えた安定した理想の森づくりを目指して、様々な活動を精力的に展開していただいております。



▲講座風景

現在の会員数は約70名を有し、間伐プロジェクトチーム、森の作品づくりプロジェクトチーム、里山プロジェク

トチームの3チームに組織化され、三島市外5ヶ市町箱根山組合から、溪畔林の整備をするための溪流構造調査や森林現況調査、植生調査などを受託するまでに発展されております。



▲溪畔林散策

また、長い年月を要する森林の水源涵養や生物多様性、公益的機能の維持には、継続した森づくりに取り組む人材育成の確保、育成が大変重要であることから、市民を対象に、昨年度から三島市が主催し、「箱根西麓 百年の森づくり講座」を実施しておりますが、その企画、運営を「NPO法人三島フォレストクラブ」にお願いしております。

この講座の内容は、箱根西麓の歴史についての座学や溪流を実際に歩き、親しみながら林学博士などの専門講師による現場での講座、そして間伐技術の実演や体験などであります。このような有効な企画、運営により、延べ160名と多くの皆さんにご参加いただいております。参加者の皆さんは、間伐作業の際、目を輝かせ熱心に取り組むな

ど、間伐の重要性を身体で感じていただけたものと思われま



▲チェーンソー講習

このように、「NPO法人三島フォレストクラブ」は、当市の森づくりの先駆者としてご活躍、ご貢献いただいておりますが、三島市では、今後も、このような「NPO法人三島フォレストクラブ」をはじめとする団体や、関係機関、市民の皆さん、行政が一体となった森づくりに関する協働の取り組みの輪を、さらに広げるよう、積極的に事業展開したいと考えております。



▲伐木講習



# 支部だより②

## 人を育てて道がつながる、 未来につなげる

静岡県中部農林事務所 森林整備課

県産材生産45万m<sup>3</sup>/年の実現に向けて「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」が始動しました。中部農林事務所森林整備課からは、「人を育てて道がつながる、未来につなげる」と題して現在の状況、取り組みを報告していただきました。

### 管内の流域ごとに展開される林業



▲管内の皆伐事例（静岡市葵区）

県中部農林事務所が所管する静岡市の森林面積は107千haに及びます。日本で4番目に高い北端の間ノ岳(3,189m)から、駿河湾に至るまで、大井川・安倍川、その支流の藁科川・中河内川、また興津川といった河川に刻まれた地形上に静岡市の森林は広がっています。それぞれの流域ごと、伐採方法が皆伐であったりまたは間伐であったり、また、架線系による集材方法が盛んに行われていたりするなどの特徴があります。各流域の特徴を活かし、林業事業者の方々素材生産活動に取り組んでいます。

### 「道づくり」のための「人づくり」



▲森林作業道先進地の視察（浜松市天竜区）

さて、以前から架線系を中心に木材生産が営まれてきた傾向が強いこの地域ですが、低コスト生産に欠かせない森林作業道をはじめとする「道づくり」への関心が最近特に高まってきました。本年度より開始した「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」においては、林業事業者の皆様から目標を大幅に上回る森林作業道の開設要望をいただいているところです。生産基盤といえる「道」を整備することで、次回の素材生産時には道づくりが不要なため素材生産コストが大きく低下することが期待されます。



▲山田・宮本両氏による作業道研修（静岡市葵区坂本）

但し、経営期間の長い森林経営において、次回の素材生産時に道が壊れ通行できなくなってしまうのは大きな損失です。いかに「壊れにくい」道を作り上げるかがオペレータには求められ

ています。

このような考えを背景に、中部農林事務所では「道づくり」のための「人（オペレータ）づくり」を積極的に支援しています。

### 「人づくり」の第一歩・・・ 研修の実践

平成24年度中部農林事務所では、壊れにくい森林作業道を普及するため、林業事業者のオペレータを対象として路網に関する研修会を既に4回開催してきました。研修は志太榛原農林事務所と共同で行われ、浜松市で事業を展開する（有）天竜フォレスターの森林作業道の視察（7月）、県林業技術者で指導林家の山田芳朗氏と青年林業士の宮本卓明氏の2氏を講師とする森林作業道の実演研修（8月、9月）、また県庁森林整備課が主催する「森林作業道作設オペレータ育成事業」（8月）による研修を開催してきました。これらの研修をきっかけとして、受講生が技術力の高いオペレータに育っていくことが期待されます。

### 今後の課題

今年度から従来素材生産があまり活発でなかった興津川流域での素材生産の取組が本格的に始まりました。

また、予想される素材生産増産に対応した効率的な木材流通の整備のため中間土場の設置（写真）や、清水港からの木材輸出等の取り組みが検討されています。

中部農林事務所は管内の森林・林業関係者の前向きな取組に対し、静岡市と共に積極的な支援を継続していく予定です。



▲中間土場検討のための先進地視察（岐阜県郡上市サテライト美並）



# 支部だより③

## 林道整備と林業振興

浜松市天竜農林事務所 森林整備グループ 野末 英人

林道は森林を守り育てるために、なくてはならない道です。近年は森林浴など森林を訪れる人々のアクセス道としても必要性を高めています。天竜農林事務所の野末さんからは、「林道整備と林業振興」について語っていただきました。

私は平成22年に入社してから林業振興と林道整備の2足の草鞋を履いてきました。こうして文字に起こせば林業振興と林道整備は本来密接な関わりを持っており、それを2足の草鞋と表現するのはおかしいかもしれません。実際に林道整備に関しては林道の設計や維持管理等を仕事としており、優先されるべきである林業振興とは少し離れてしまっている部分もあります。何も知らない私はこうして林業振興と林道整備の道に進んでいきました。

最初に教えてもらった仕事は伐採届の処理でした。処理自体は差ほど難しくは無いのですが、木を伐る場合には浜松市に届出を出さなければならないということをその場で初めて知りました。今まで林業との関わりなど全く無かった私にとっては、そもそも自分の土地に植えてある木であっても伐採には届出が必要と言う事が、初めは理解ができませんでした。これは後々林道整備を教えてもらっている時に理由を知ります。

浜松における林道は全長合計693,000m程になります。主に林業の為の道であると同時に山間部では大事な生活道にもなっています。これらの林道を改良維持管理していくのが林道整備の主な仕事になります。

昨年度に発生した台風15号を含む自然災害によって多くの林道が被害を受け、規模が小さい物から大きい

ものまで様々な災害が起きました。その中でも路肩崩落や法面崩壊を起こし、通行が出来なくなってしまった所も数多く存在します。



▲林道 青崩線災害現場



▲林道 池の平矢岳線災害現場

林道整備では通行に支障のある箇所や、山が荒れている箇所を直すなどの様々な工事を行います。これらを勉強していく中で、災害は発生しやすい状況というものがあり、その理由の一つに大規模な伐採を行うことによって災害が起こりやすくなるという事例が存在します。その中では山の中腹箇所ですぐに広範囲の木を皆伐することによって、その部分の土壌が不安定になり土砂災害が起こる可能性がある」と記載されていました。この事が、森林の機能を

守る為に伐採を行う際には届出を行わなければならないということに繋がってくるのだと思いました。

林業振興では他にも森林施業計画も担当させてもらいました。林業は他の農作物などと違い、成長に時間が掛かるが、ある程度成長するといつでも収穫できるため無計画に伐採を行ってしまわないための長期計画が森林施業計画というものになり、長期にわたって伐採や造林の計画を作り、森林の管理と共に災害が起こらないように森林機能の維持を行える制度です。これが思っていた以上に大変な仕事でした。初めにも書きましたが、この森林施業計画と林道は密接な関わりがあり、林道を開設することによって林業作業が行いやすくなります。それによって森林施業計画がより充実したものになります。計画策定は大変であっても林道整備にとっても林業振興にとっても大事なもののなのです。

この森林施業計画なのですが、平成24年度から森林経営計画と言う制度に変更されました。この制度は森林施業計画よりも密集的な施業や、より長期的な計画を作ることが出来るようになっており、地域によって施業範囲が疎らになってしまうなどの問題点の改善を行ったものが森林経営計画となります。

浜松市に於いては元々施業計画に熱心な場所が多く、ほぼ施業計画が樹立されている地域もあります。この制度が変わってしまったことで、元々の施業計画が無くなってしまい、また一から経営計画を作らなければならないようになってしまいます。そのためなのか、経営計画作成の動きが少し鈍い部分があるかも知れませんが、時代の流れとして受け取るしかないのかなとも思います。非常に厳しい問題だと思いますが、それらを維持管理することによって林業振興と林道整備が密接な関係に戻るように頑張っていきたいと思っています。



# 県庁だより①

## 伊豆しいたけの再興に向けて

経済産業部 農林業局 林業振興課

県林業振興課からは、風評被害により価格の下落が続いている伊豆市の特産である乾しいたけについて、現在の状況、再興に向けての取組みを伺いました。

伊豆地域は、先人から引き継がれた高い栽培技術により、日本有数のしいたけ産地を形成しており、しいたけ産業は、地域経済の中で重要な役割を担ってきました。

しかし、昨年10月の乾しいたけの暫定規制値超えから端を発した放射性物質問題は、産地に大変大きな影響を与えており、風評による価格の下落が続くなど、生産者は未だかつてない厳しい経営環境にさらされています。

歴史と伝統に培われた伊豆のしいたけ産業を絶やさぬよう、産地の信頼回復に向けて生産者や地元関係者は懸命な努力をされており、その思いに応えるよう県も積極的な支援を行っています。



▲高品質な県産の乾しいたけ

### 万全な生産・出荷体制

食品に含まれる放射性物質の基準値が平成24年4月1日から適用され、しいたけは暫定規制値の500Bq/kgから一般食品に適用される100Bq/kgに厳格化されました。

J A伊豆の国では、市場に集まる乾しいたけの全箱を対象に自主検査

を行い、伊豆市では全生産者を対象に生しいたけの自主検査を行うなどの出荷対策を講じています。

このような自主検査に加え、県のモニタリング検査により地域的な安全性を継続して確認しています。

しいたけの放射性物質被害は、その生産基材となる原木やほだ木からの放射性物質の移行に起因することから、国は原木・ほだ木の安全基準となる「当面の指標値50Bq/kg」を設定しました。

県では、この指標値を超える原木・ほだ木が使用されないよう原木・ほだ木の広域的な放射性物質調査を行っています。

このように関係者が連携して生産工程に合わせて多段階にチェックし、安全なしいたけを供給するための万全な生産・出荷体制を構築しています。

### 生産技術の研究

放射性セシウムを除染する物質としてプルシアンブルー（フェロシアン化鉄）の効果が各研究機関等から報告されています。

県森林・林業研究センターでは、プルシアンブルーの施用によりほだ木からしいたけへの放射性セシウムの移行を抑制する方法を全国に先駆けて研究しています。

プルシアンブルーのほだ木への施用については、法的整備が必要ですが、既に一定の低減効果が確認されており、施用が認められれば重要な生産対策となるものとして、その成果が期待されています。

### 生産支援と消費拡大

伊豆市は、生産者の種駒購入費の一部を助成し、その生産活動を支援しています。

伊豆市修善寺の「きのこ総合センター」では、毎年11月3日の文化の日に地元関係者が一体となってしいたけの消費拡大を目的に「きのこ祭」を開催しています。今年も県内外から1,500人もの来場者があり、焼しいたけを堪能し、きのこクイズに興ずるなど、きのこ祭は、この時期に欠かせない季節行事となっています。

また、11月に開催された全国育樹祭の会場で乾しいたけを配布するなど、イベント等を通じ県産しいたけの良さを県内外に向け広くPRしています。



▲きのこ祭で焼しいたけに舌鼓

### みなさんへのお願い

J A伊豆の国の乾しいたけの市場単価は、風評被害により、放射性物質問題が発生する以前のキロ4,000円前後から直近の入札会では1,000円台前半にまで落ち込んでいます。

生産者は市場での正当な評価が得られず生産意欲が低下しています。

しいたけを取引する商社では、安全性が確認されているにも関わらず、取引を停止される事態も発生しています。

みなさん一人ひとりの少しの思いやりや支援が広がれば大きな力となって産地を元気付けます。スーパーなどで伊豆あるいは県産しいたけを見つけたら迷わずカゴに入れてください。よろしくお祈りします。



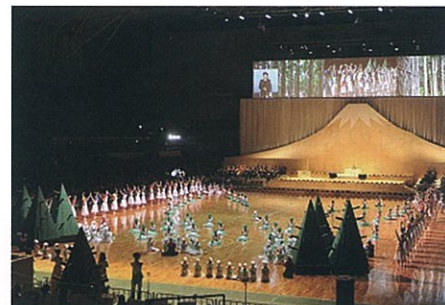
# 県庁だより②

## 第36回全国育樹祭 盛会のうちに終了!

交通基盤部 森林局 全国育樹祭推進課



と、育樹祭を締めくくるエピローグの開始です。



「森林資源の活用とそのための人づくり」の開催方針にふさわしく、天竜林業高校の生徒が、学校での活動報告と、当日同じ敷地内で開催した機械展のレポートを行いました。

最後は、白井貴子さんのミニ・ライブで終了。昼頃から雨天となってしまいましたが、おかげさまで、来場者の皆様に満足いただける素晴らしい大会となりました。

### 併催・記念行事

#### ○育林技術交流集会

会場：天城ドーム

「ふじのくに森林を守り育て活かす人づくりの取組」をテーマに、様々な視点からの意見が交わされ、約500人の観客とともに、林業の人材育成の大切さを再確認しました。

#### ○全国緑の少年団活動発表大会

会場：メロプラザ(袋井市)

全国から選ばれた、県外4団、県内1団の緑の少年団が、工夫を凝らした発表映像を使い、約500人の観客を前に、日頃の活動を発表しました。

#### ○森林・林業・環境機械展示実演会

会場：エコパグラウンド(掛川市)

今回、全国で初めて式典と同じ敷地内で開催しました。

従来の、機械の展示と実演に加え、「林内実演会」として、隣接する森林内で、最新鋭の林業機械を使った間伐のデモンストレーションを行い、その迫力に多くの観客が目を奪われました。

**御協力いただき、  
ありがとうございました。**

県全国育樹祭推進課からは、本年静岡県で開催された「第36回全国育樹祭」の報告をしていただきました。

昨年11月10日(土)、11日(日)、「第36回全国育樹祭」を開催しました。多くの方からご好評をいただき、静岡県らしい、素晴らしい大会となり誠にありがとうございました。

当日の様子をご紹介します。

### 育樹祭行事

#### ○お手入れ行事

会場：あまぎの森(伊豆市)

11月10日(土)、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、お手入れ行事を開催しました。

当日は、秋晴れの暖かく爽やかな一日となり、皇太子殿下は、田方農業高校の生徒2名と湯ヶ島小学校緑の少年団の児童4名の介添えで、第50回全国植樹祭で天皇陛下がお手植えされたヒメシャラと、皇后陛下がお手植えされたヤマボウシに、それぞれ施肥をされました。



#### ○式典行事

会場：エコパアリーナ(袋井市)

11月11日(日)、前日に続いて皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、式典行事を開催しました。

書道家・岩科蓮花さんと天竜林業高校伝統芸能部の和太鼓演奏とのコラボレーションなどのプロローグで来場者を歓迎した後、皇太子殿下が御着席さ



れると、厳かな雰囲気の中、緑の少年団の入場行進から、式典がスタートしました。

式典では、森づくりや緑化等に功績のあった方々が表彰されたほか、「みどりの贈呈」として、県内の緑の少年団が育てた苗木が、「みどりの奨励賞」を受賞した県外の緑の少年団に、農林水産大臣から手渡されました。

県内で「みどりの奨励賞」を受賞した、伊豆市の月ヶ瀬小学校緑の少年団は、受賞団体を代表し、活動発表を行いました。

式典の後半では、林業後継者等から「誓いのことば」が述べられました。



また、メインテーマアトラクションとして「Forest Life～森と妖精の物語」を上演。県内の小、中、高校生とプロの出演者が一体となり、「ボレロ」のメロディーに乗せて壮大な作品を披露しました。

式典が終了し、殿下が御発ちになる



# 本部情報

## 【静岡県森林土木技術研究会との協働による人材育成】

### ◆ 治山林道技術研修会

本協会は、森林保全の人材育成のため県との共催により、新たに治山、林道業務を担当する市町及び県の職員を対象に治山林道技術研修会を実施しています。この講師には、森林土木の知識技術に長けた県職OBに依頼してきました。

一方、県内には森林土木を得意とするコンサル会社等で組織する『静岡県森林土木技術研究会』が平成15年に発足しており、会員相互の技術の向上、森林土木技術の継承及び森林土木事業の発展のために活動しております。



▲県と研究会による  
林道災害復旧研修会の風景

この研究会と山林協会は目的や活動内容に共通な点があり、目標達成のため相互協力して実施した方が効果の期待できるものについて「活動協力等についての覚書」を平成24年6月21日に締結しました。

### 【森林土木技術研究会 会員】

地区	会員名	所在地
東部	鈴木設計(株)	三島市
	東海技術開発(株)	富士宮市
中部	昭和設計(株)	静岡市葵区
	(株)トップエンジニア	静岡市駿河区
	(株)奥平測量設計事務所	藤枝市
	(有)福永測量設計事務所	藤枝市
	(株)松井測量設計事務所	島田市川根町
西部	(株)共和コンサルタント	浜松市南区
	(株)フジヤマ	浜松市中区
	吉田測量設計(株)	浜松市東区
	(株)技研測量	浜松市北区
	(有)熊谷測量設計事務所	浜松市天竜区

## 事務局だより

\* 杉玉(すぎたま)のことを御存じでしょうか。スギの穂先を集めてボール状にしたもので日本酒の造り酒屋で、今年の新酒ができましたよ。と知らしめるために店の軒先に吊り下げたと云われています。

\* 最近、森林・林業関係のイベントなどで、この杉玉作りが注目を集めています。杉玉それ自体でも装飾として

面白いのですが、これにクリスマスや正月用のグッズを取り付けることによ



り、クリスマスリースや門松の代わりに使っているお宅もあるそうです。

\* 今年は、正月シーズンも過ぎてしまいましたが、次の冬には是非、杉玉作りにチャレンジしてみませんか。作り方は、ホームページ等に掲載していますので参考にしてください。

(橋本)

### ◆ 今後の展開

協力事例といたしましては、前述の治山林道技術研修会への講師派遣に関し森林土木技術研究会が全面的に協力することや、県等の行政機関への提案要請活動等も協働で行うこととしています。

この要請活動の一環として、研究会員及び行政職員の森林土木の技術力向上に向け、どのような方策が考えられるか、山林協会の仲立ちとなり県幹部職員と研究会員との意見交換会が11月14日に開催されました。

一昔前まで、測量設計の技術知識は、県の通常業務の中で先輩から若手へとOJTによる継承が密に行われてきましたが、最近では自前による測量設計の機会が殆どなくなり、技術の継承が難しくなっています。しかし、業務自体は委託という形態で継続されております。

そこで、委託した測量設計業務の中に発注者側も参画する手法を取り入れ、その中で技術習得ができないか、議論のテーマになりました。この場では一致した結論はでませんでした。一考の価値はあるとの認識でまとめ、研究会側からも繁忙期の発注を避けてくれば実現可能とのことでした。技術継承は、直ぐにでも取組まなければならない課題なので、まずは実施してみたいかがでしょうか。